二特集=

キャリア教育の視点による教育課程及び 授業の改善・充実を図るためのツールの開発と試行

菊 地 一 文

(教育支援部)

要旨:知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表(試案)」(国立特別支援教育総合研究所, 2008)の活用方策の一つとして,教育課程の分析及び改善を目的とした「単元における観点位置付けシート」,授業の充実・改善を目的とした「授業における観点位置付け・授業改善シート」を開発した。これらを特別支援学校及び特別支援学級において試行し、各シートを試行した教員を対象に意識調査を実施した。その結果,単元及び授業にキャリアの各能力領域や各観点が含まれていることについて,前者では54%,後者では96%,気付くことができたという回答を得た。両シートの評価結果の違いの要因の一つとしては,作業コストや対象とした教育課程,授業等,反映の各視点に対する教員の関心の度合いが推測され,ツールの導入に当たっては、教員にとって身近な授業を切り口とすることが比較的取り組みやすく,その後の教育課程改善にもつながりやすいということが示唆された。

見出し語:キャリア教育, 知的障害, 教育課程, 授業改善, 評価

I. はじめに

「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に ついて」(国立教育政策研究所生徒指導研究セン ター、2002) では、キャリア教育を推進するための 枠組みとして提案した「人間関係形成能力」、「情報 活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」の4 能力領域及び「職業観、勤労観を育む学習プログラ ムの枠組(例)」について、現在行われている各学 校の一つ一つの活動について、どのような能力の育 成を目指したものなのか/全体としてバランスがと れた取組になっているか/どの能力・態度の育成に かかわる取組が不足しているか等、点検・見直しを する際の参考として活用することを提案している。 また、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研 究協力者会議報告書 | (国立教育政策研究所生徒指 導研究センター、2004)では、キャリア教育の意義 を「個々人のキャリア発達と自立を促すという視点 から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革し ていくための理念と方向性を示すもの」と示し、キャリア教育の視点から一貫性・系統性をふまえた教育課程及び授業の充実を図る必要性について提言している。キャリア教育はアメリカ合衆国連邦教育局長官であった Marland のスピーチ(1971)によって始まったとされる教育改革運動であり、上記の提案及び提言のとおり、現在の教育活動を見直す重要な視点でもある。

これらのことを踏まえ、本研究では、知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表(試案)」 (国立特別支援教育総合研究所、2008 以下、前試案(2008)とする)について、ライフキャリアの視点からの検証及び改訂に加え、前試案(2008)及びその改訂版である、知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」(以下、本試案(2010)とする)の活用による、キャリア教育の推進及び充実を図るためのツールの開発とツールの活用による実践モデルを提案することとした。

本稿では、前試案を基に、その活用方策の一つと

して、教育課程の分析及び改善を目的として開発した「単元における観点位置付けシート」、授業の充実・改善を目的とした「授業における観点位置付け・授業改善シート」の試行及び評価について報告する。

Ⅱ. 各シートの概要について

1. 単元における観点位置付けシート

(1)単元における観点位置付けシートの概要及び 作業手順

単元における観点位置付けシートは、年間指導計画を活用し、単元レベルから捉えた教育課程の横断的側面及び縦断的側面の把握と改善につなげることを目的としている。教育課程の横断的側面とは、各教科、領域、各教科等を合わせた指導等、各指導形態間における指導内容の「横のつながり」のことを指し、教育課程の縦断的側面とは、各学部・各学校間における指導内容の「縦のつながり」のことを指す。

本シートは,年間指導計画の各単元のねらいに対して該当するキャリア発達段階・内容表(試案)に

おける各観点を位置付けるものであり、年間指導計画にある各単元の主なねらいがキャリアの観点と一致する場合は「主たる観点」として、授業の主なねらいではないが授業のねらいとして含まれる場合は「関連する観点」としてそれぞれ \bigcirc ○を記入するものである。学校全体及び各学部及び各指導形態別に本シートを集計し、整理することにより、教育課程におけるキャリアの4能力領域や各観点の傾向を把握することが可能と考えた。加えて、集計結果を分析し見直すことにより、C(Check) \rightarrow A(Action) \rightarrow P(Plan) \rightarrow D(Do)サイクルによる教育課程改善が図られると考えた。

単元における観点位置付けシートの活用による教育課程分析の作業手順を図1に示す。

本シートの作業手順は、以下のとおりである。

- ① A 欄に年間指導計画から単元名と主なねらいを 転記する。
- ②B欄にある、該当するキャリアの観点について ◎○を記入する。観点は複数挙げてもよい。学習 活動の目標(ねらい)が、各観点の趣旨と同じ場 合は「主たる観点」として◎を、学習活動の目標(ね らい)とは異なるが、指導上の配慮事項等に各観



図1 単元における観点位置付けシートの活用による教育課程分析の作業手順

点の趣旨が関連すると考えられる場合は「関連する観点 | として○を記入する。

③位置付けられた◎○を集計する。

なお,作業に当たっては,以下の点を留意事項と した。

- ・観点は当該学部のものを位置付ける。 例)「人とのかかわり」は中・高等部であれば「自 己理解」「他者理解」とする。
- ・ねらいそのものがキャリア教育の観点と一致しない場合は無理に位置付けない。
- ・将来設計能力「習慣形成」には「体力」「スケジュールの理解」等が含まれる。「キャリア発達段階・内容表(試案)」には「家庭・学校生活に必要な習慣づくり」と書かれているだけなので観点解説を参照すること。等
- ・学校によっては、対象とする年間指導計画の様式が、第一次、二次といったように細かな題材ごとになっているものと単元全体を一つとしているものがあり、学習活動の目標(ねらい)についても具体的に複数記入されているものがある。詳細を分析するためには、単元よりも題材、題材よりも授業というように対象が小さくなるほど、精度は高まると推測する。いずれの場合も「記入されてある文言通り位置付ける」「記入されていなくても単

元において含まれるものを想定して位置付ける」 等、学校として位置付けの基準を統一して作業を 進めること。

(2) 単元における観点位置付けシートの活用例

本シートを研究協力機関6校及びその他の学校において試行した。研究協力機関の内訳は、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校(以下,特別支援学校(知的障害)とする)5校(小・中・高併置校4校,高等部単置校1校)及び中学校知的障害特別支援学級1校であった。その他の学校は小・中・高併置の特別支援学校(知的障害)数校であった。研究協力機関のうちの1校であるA特別支援学校における単元における観点位置付けシートの記入例を資料1(P44)に、単元における観点位置付けシートの活用例を図2~図4に示す。なお、観点位置付けの対象は小・中・高の全学部、全指導形態である。

これらの作業により、A特別支援学校では、各学部、各指導形態にキャリア教育発達段階・内容表(試案)の能力領域や観点がどのように含まれているかを把握し、教育課程の改善やキャリア教育全体計画の作成及び改善につなげていった。また、年間指導計画の様式の改善や記述内容の吟味や目標設定の再検討など、作業を行うことによって従来の年間指導計画の課題が明確となり、改善に向けた検討の必要

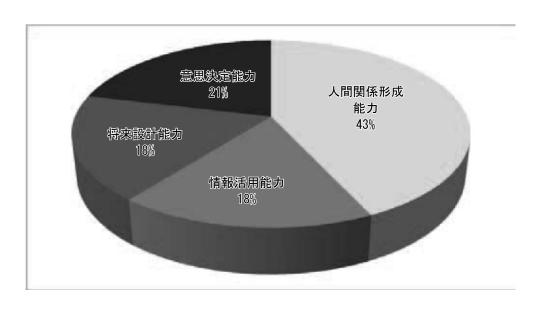


図 2 4 能力領域の割合(A 特別支援学校/全指導形態:主たる観点)

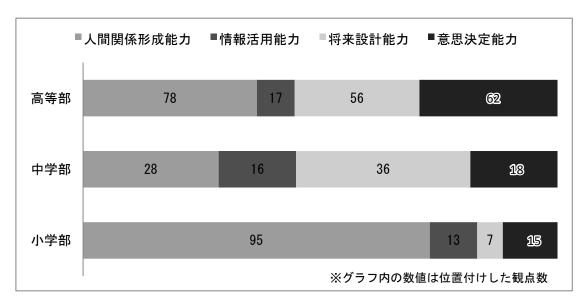


図3 各学部における4能力領域の割合(A特別支援学校/全指導形態:主たる観点)

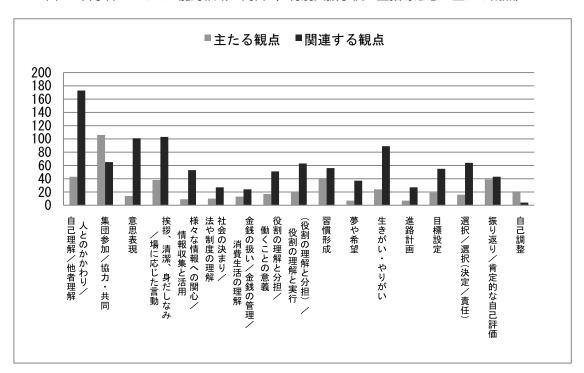


図4 17観点の位置付け数(A特別支援学校/全指導形態)

性が挙げられた。

(3) 単元における観点位置付けシートの活用からの示唆

複数校を対象とした本シートの活用による教育課程の分析作業を行うことで、特別支援学校(知的障害)としての傾向、教科別または合わせた指導中心といった教育課程のタイプ、各学部、指導形態の違いによるねらいとしているキャリアの能力領域や各

観点の傾向が把握できると考え,各校において取り 組んだ分析作業のデータを集約した。その結果,以 下の傾向が読み取れた。

なお,この結果は統計的に処理したものではなく,学校によって対象とサンプル数が異なり,位置付け方法の精度の問題もあるため,各校が集約した分析結果は一概には比較できないものであるが,あくまでも参考として紹介する。

- ・教科別の指導よりも各教科等を合わせた指導の方 が、キャリア教育の能力領域や観点が多く含まれ る傾向が見られた。
- ・4 能力領域の割合では、各教科等を合わせた指導を中心とした教育課程においては、全体的に「人間関係形成能力」の割合が高い傾向が見られた。
- ・4 能力領域の割合では、教科別の指導を中心とした教育課程においては、各教科等を合わせた指導を中心とした教育課程よりも「情報活用能力」の割合が高い傾向が見られた。
- ・4 能力領域の割合では、小学部において「人間関係形成能力」の割合が高く、学部進行と共に減少していく傾向が見られた。
- ・4 能力領域の割合では、小学部において「意思決 定能力」の割合が低いが、学部進行と共に増加し ていく傾向が見られた。
- ・17 観点(「自己理解」「他者理解」を一つとしてカウント)の位置付け数では、研究協力機関によって傾向が異なった。
- ・17 観点の位置付け数では、「夢や希望」の主たる 観点の位置付けが他のものに比較して少なかっ た。等

なお. 分析対象及び方法は異なるが. 木本・菊 地 (2009), 柴田・菊地 (2010), 渡部・菊地 (2010) においてもこれらのいくつかと同様の傾向を示す結 果となった。これらの結果から、特別支援学校(知 的障害)特有の傾向があることと,学校ごとの教育 課程編成のタイプの違いにより4つの能力領域の割 合の傾向が異なることが推測された。ただしこの結 果については、より詳細な検討が必要であり、観点 位置付け方法の精度の向上及びより多くのサンプル による分析が必要であり、今後の課題である。あく までも本ツールの活用による教育課程分析作業は. 自校の教育課程におけるキャリア教育の観点がどの ように含まれているかについて分析し、今後の改善 に役立てることを目的としたものである。そのこと を再確認した上で、今後の研究において知的障害教 育としての特徴や各学部における傾向等について分 析することにより、キャリア教育の視点による教育

活動の充実及び改善を図る必要があると考える。また、知的の各教科を取り扱っている肢体不自由教育等における知的代替の課程等、他障害種における適用についても試行し、適用の妥当性等に関する検討が望まれる。

2. 授業における観点位置付け・授業改善シート

(1) 授業における観点位置付け・授業改善シート の概要及び作業手順

本シートは、①各授業の特徴に即したキャリア教育の具現化、②授業のねらいの明確化及び授業改善、③授業レベルから捉えた教育課程の横断的側面及び縦断的側面の把握を目的としている。

本シートは、学習指導案(略案)を活用し、各授 業に含まれる本試案の観点を位置付け、授業改善を 図り、指導内容のつながりを確認するものである。 シートの観点の位置付け欄には、授業の主なねらい に関連した学習活動がキャリアの観点と一致する場 合は「主たる観点」として、授業の主なねらいでは ないが授業のねらいとして含まれる場合は「関連す る観点 | としてキャリアの観点を記入する。また. 気づき欄には、①授業に含まれるキャリアの観点を さらに充実させるための改善方策. ②他の指導形態 や他学部における指導内容等に反映できると考えら れる事項, ③家庭生活や地域生活等, 生活全般へ 反映できると考えられる事項を記入する。これらの 作業によって教員個々の「気づき」を大切にしたC $(Check) \rightarrow A (Action) \rightarrow P (Plan) \rightarrow D (Do) サイク$ ルによる授業改善が図られると考えた。また, 本シー トの活用により、できるだけコストをかけずに授業 を振り返り、改善を図ることが可能となり、継続的 な授業改善が期待できるのではないかと考えた。

授業における観点位置付け・授業改善シートの活用による観点位置付け・授業改善の作業手順を図5に示す。

授業における観点位置付け・授業改善シートの活用による観点位置付け・授業改善の作業手順は以下のとおりである。

- ① A 欄に学習指導案(略案でよい)から学習内容 及び支援と指導上の留意点を転記する。
- ②授業のねらいを確認する。

学郎・学年		場所			Т					
指導形態				本時の目標						
題材名		指導者								
	学習内容	*	接と指導上の留意点	キャリア先に	主投角	着・内容表(試案)			気付き	
				主たる観点	ī	関連する観点	次時の	授業改善点	教育課程への反映	生活全体への
1	算案から学習内 算上の留意点を				•	アの観	5	教育課	ーーーーー の改善点 程のつながり 本へのつなか	
								生冶至1	気づきを記	

図5 授業における観点位置付け・授業改善シートの作業手順

- ③B欄に学習活動に含まれていると考えられるキャリアの観点を記入する。観点は複数挙げてもよい。その場合、学習活動の目標(ねらい)が、各観点の趣旨と同じ場合は「主たる観点」欄に、学習活動のねらいとは異なるが、指導上の配慮事項等に各観点の趣旨が関連すると考えられる場合は「関連する観点」欄に記入する。再度②のねらいと主たる観点を確認し、必要に応じて修正する。
- ④ C 欄に授業における観点の位置付け作業を行う ことを通して、授業者が気づいた事項を記入す る。
 - ア 次時の授業改善への反映
- ③で位置付けたキャリアの観点をより充実させる ための改善方策について記入する。
 - イ 教育課程への反映

本授業の成果が、他の授業(他の指導形態)の目標、内容、方法等に反映できる、または関連していると考えられる事項について記入する。

ウ 家庭生活・地域生活への反映

本授業による成果を, 家庭, 地域等と連携した活動等に反映できると考えられる事項について記入する。

上記の作業について、授業を行っている指導者間で行うことにより、授業のねらいが精選され、明確になることが期待される。また、同じ学部の教員間で行うことにより、教育課程の横のつながりを把握することが期待される。小・中・高の学部を越えた教員間で取り組むことにより、小学部、中学部、高等部の教育課程の縦のつながりを把握することが期待される。なお、作業に当たっては、以下の点を留意事項とした。

- ・観点は当該学部のものを位置付ける。
 - 例)「人とのかかわり」は中·高等部であれば「自己理解」「他者理解」とする。
- ・ねらいそのものがキャリア教育の観点と一致しない場合は無理に位置付けない。
- ・「主たる観点」が複数位置付けられることがあるが、授業のねらいを確認の上、精選すること。また、「関連する観点」についても「主たる観点」以上に多数位置付けることが可能なので、同様に授業のねらいを確認の上、精選すること。できるだけ複数の目で捉え、位置付ける観点を共有し、精選し、明確にすることが大事である。

・将来設計能力「習慣形成」には「体力」「スケジュールの理解」等が含まれる。「キャリア発達段階・内容表(試案)」には「家庭・学校生活に必要な習慣づくり」と書かれているだけなので観点解説を参照すること。等

(2) 授業における観点位置付け・授業改善シート の活用例

授業における観点位置付け・授業改善シートの記 入例を資料 2 (P45) に示す。

(3) 授業における観点位置付け・授業改善シート の活用からの示唆

研究協力機関等による本シートの試行を通して, 授業に含まれるキャリア教育の各能力領域や各観点 への気付きの他,指導者によって授業のねらいの捉 えが異なる場合があるという課題への気付き,活動 をキャリアの視点で捉えることによるねらいの精選 や段階的にねらいを変えていくことへの必要性等, 授業改善の具体的方策のみならず単元題材計画の工 夫や個別の指導計画の見直しの必要性が示唆され た。

具体的には、作業学習や自立活動といった繰り返し授業や、形骸化が指摘される行事単元等におけるねらいの明確化や段階的なねらいの設定が図られること、また、いわゆる重度重複障害のある児童生徒にとっての集団及び個別指導におけるねらいの明確化や段階的なねらいの設定が図られることにもつながり、彼らのキャリア発達について分析的に検討する契機となることが挙げられる。

Ⅲ. 各シートの試行を通しての評価

1. 目的

研究協力機関等における各シートの試行による成果及び課題を明らかにすることを目的として,質問紙による意識調査を行った。

2. 方法

(1) 対象

本研究で提案した各シートの試行及びキャリア教

育全体計画の作成等に関わった特別支援学校及び特別支援学級教員 104 名(研究協力機関 6 校の他,本研究の趣旨に賛同し,ツールを試行した特別支援学校及び特別支援学級教員を含む)

(2)調査方法

質問紙による意識調査 (2, 4, 5件法による設問及び自由記述での回答を求める設問で構成)。各ツールを試行した学校宛にメール添付により質問紙を送信し、アンケートサーバーへの入力または書面による記入により回答を得た。

(3)調査内容

単元における観点位置付けシートの試行に関する 設問項目として、①年間指導計画に含まれるキャリ ア教育の各能力領域及び各観点に気づき、傾向を把 握できたか、②作業を通して気づいた事項(自由記述)、③課題と思われる事項(自由記述)等につい て回答を求めた。

また、授業における観点位置付け・授業改善シートの試行に関する設問項目として、①授業に含まれるキャリアの能力領域や各観点の気付きにつながったか、②授業の改善方策を考える機会となったか、③教育課程のつながりを考える機会となったか、④家庭生活や地域生活とのつながりを考える機会となったか、⑤作業を通して気付いた事項(自由記述)、⑥課題と思われる事項(自由記述)等について回答を求めた。質問紙には、他に回答者の職責や各ツールを用いた取組への参加状況、キャリア教育全体計画の作成を通しての気づき及び課題、キャリア教育に組織的に取り組むことによる成果及び課題、自身の変容等(自由記述)についても項目を設け、回答を求めた。

(4)調査期間

2009年12月

3. 結果

本稿に関係する単元における観点位置付けシート 及び授業における観点位置付け・授業改善シートの 活用に関する設問の一部についてのみ報告する。

(1) 単元における観点位置付けシートについて

- ①年間指導計画に含まれるキャリア教育の各能力 領域及び各観点に気づき、その傾向について把握 できたか、という設問に関しては、「おおむねで きた」「どちらかといえばできた」という回答が 54%であった(図 6)。
- ②作業を通しての気付き(自由記述)に関しては、「単元計画作成の上でつながりを意識することができた。」、「単元によっては位置づけに偏りがあることが分かった。」、「観点位置づけ作業を行なうことにより今まで教科に関する内容を漠然と行なっていたものが、どの能力にあてはまっているのか意識しながら取り組むようになった。」など、単元などの計画段階での教員自身の意識に関する記述が多くみられた。

一方で、「位置づけの捉え方が難しい。」などの 意見もあり、キャリアの観点とその位置づけの作 業にかかる教員の戸惑いに関する意見もあった。

また、「年間指導計画を分析することにより、本校の指導内容の傾向が明確になった。」など、学校全体の傾向について把握する機会となったという意見や「小学部の教員全員であるいは学習グループのメンバーで観点位置づけ作業をしたことにより、学習活動のねらいを改めて見直し、共通理解を図ることができた。」、「学部全体で教育課程を見直すきっかけになった。」など教員集団の意識の変化に言及する意見もあった。

③課題等(自由記述)に関しては、「すべての学部のすべての単元・題材を観点位置づけするのは時間がかかる。」といった作業コストの大きさに言及する意見が多くみられた。また、「観点の捉え方が人によって大きく違うことが分かった。」など、教員個々の観点の捉え方の違いなどの課題も見られた。「題材のねらいが大きすぎると、位置づけがしにくく、ねらい設定の仕方を工夫することが必要。」など自校のねらいの設定に対する課題が明確になったという意見もあった。

(2) 授業における観点位置付け・授業改善シート について

- ①授業に含まれるキャリアの能力領域や各観点に気付けたか、という設問に関しては、96%が「はい」と回答した(図7)。
- ②授業の改善方策を考える機会となったか、③教育課程のつながりを考える機会となったか、④家庭生活や地域生活とのつながりを考える機会となったか、については、それぞれ83%、74%、66%が「はい」と回答した(図8~10)。
- ⑤作業を通しての気付き(自由記述)に関しては、 「TT を組む教員の授業の目標や手だての共有化が図られる。」、「授業を行なう中でキャリア教育の観点が意識できるようになった。」など、教員間におけるねらいや手立ての共有化に役に立ったなどの意見や「授業のねらいが絞られた。観点

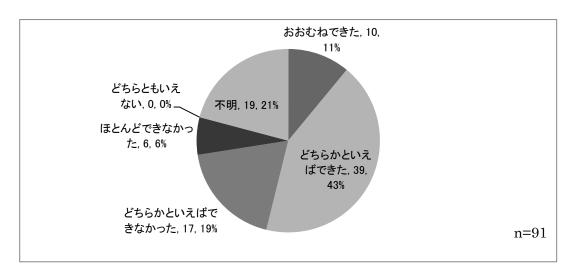


図6 年間指導計画にキャリア教育の観点が含まれることへの気づきとその傾向の把握

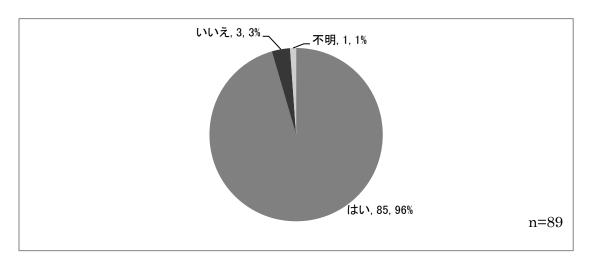


図7 授業の中にキャリア教育の観点が含まれることへの気づき

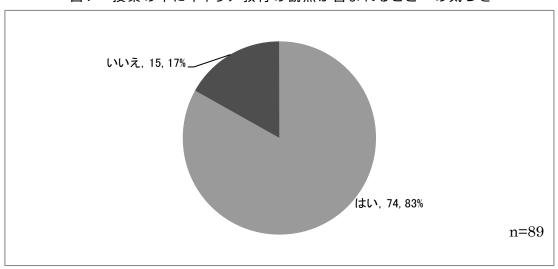


図8 授業の改善方策を考える機会

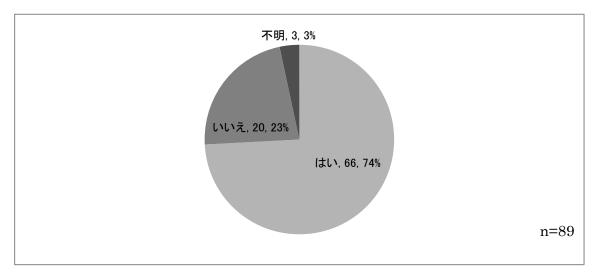


図9 教育課程とのつながりなどを考える機会

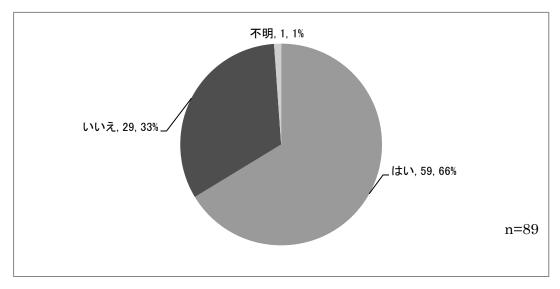


図10 家庭生活や地域生活とのつながりなどを考える機会

を位置付けることで、ねらいの見直しが図られた。」、「子どもへの「気づき」から次時の授業での支援や指導上の留意点が細かくはっきり分かる」、「反省をしっかりした形ですることで、全体的な見直しや改善が行える。」など、一つ一つの授業を対象としたねらいの見直しに寄与した旨の意見が多くみられた。

また、「次時の改善にはつながるが、教育課程や地域生活へのつながりは考えられなかった」など、授業レベルでの有効性を感じながらも地域生活へのつながりを意識するに至らなかったという意見も見られた。「略案程度なので、簡単に記入できる。」など、作業コストに関して負担感を感じる記述はなかった。

⑥課題等(自由記述)については、「『気づき』の欄の記入について職員間の認識のずれが課題となった。」、「各項目に書き込む内容、観点についての共通理解が難しいと感じた。」、「人によって観点の押さえ方が違い、共通理解には話し合いが多く必要であるが、実際にはそのような時間はなかなかもつことができない。」など、自校の教員間の情報交換や合意形成における課題が浮かび上がってきたという意見が多くみられた。また、「観点位置づけの作成では観点の解説を読むと本校小学部児童には難しかった。」など、障害の重い児童生徒への適用についての難しさや「学習グループ

の生徒人数が多い場合、生徒一人一人の課題を全 員について記入するか、同じような課題の生徒を まとめていいのか。」など、具体的な作成作業の 課題についても意見があった。「これまでの授業 研究会との違いに慣れることに時間を要した。」 など、これまで教員が行ってきた活動との違い、 特に概念や取り組み方の違いに戸惑うような意見 も見られた。

「教員間のねらいの捉えのズレ」,「教員による 観点の捉えの差異」等,教員間の情報共有や合意 形成に関する課題は,作業を通しての気づきで挙 げられた肯定的な意見と相反するものであった。

4. 考察

上記の結果から、単元における観点位置付けシートについては、回答者の9割程度が作成しており、主に担任教諭がシートの作成や話し合いに参加している実態があることが明らかになった。作成に関与した回答者の約半数程度が指導内容の傾向の把握が「できた」と答えていることに関しては、指導内容の傾向の把握までを求めたためであり、単元の中にキャリアの観点が含まれていることへの気づきのみを問う設問であれば、より多くの「できた」という回答を得られたと推測された。

一方,教育課程や年間指導計画などの計画の見直 しについては、「できた」という回答はわずかであっ たが、多くは「現在行っている最中」と回答している。このことから、単元における観点位置付けシートは、その作成や話し合いの実施により、指導内容の傾向の把握に寄与しており、教育課程や年間指導計画などの計画の見直しのきっかけとなっていることが推測された。

授業における観点位置付け・授業改善シートについても、回答者の9割程度が作成しており、主に担任教諭が授業における観点位置付け・授業改善シートの作成や話し合いに参加している実態があることが確認された。作成に関与した回答者の多くが、授業の中にキャリア教育の観点が含まれることに気づいた、授業の改善方策を考える機会なった、教育課程とのつながりなどを考える機会となったと回答している。このことから、授業における観点位置付け・授業改善シートの作成や話し合いの実施により、授業改善等に関連する諸領域に関する見直しの機会となっていることが推測された。

以上のことから、限られた回答数での評価ではあったが、両シートの試行による具体的な作業を通して、キャリア教育の理解の深まりや、共通理解のための指標としての有効性が示唆された。両シートの評価結果の違いの要因の一つとしては、作業コストや対象とした「教育課程」「授業」または反映の各視点に対する教員の関心の度合いが推測された。また、実際に研究協力機関において実施した授業における観点位置付け・授業改善シートに基づく授業研究会を通して、参加者から教育課程への関心が高まったという回答がいくつか見られたことから、各ツールの導入に当たっては、教員にとって身近な「授業」を切り口とすることが負担感も少ないため、比較的取り組みやすく、その後の教育課程改善にもつながりやすいと考える。

IV. おわりに

新学習指導要領に推進の必要性が示されたことにより、キャリア教育を研究課題として採り上げる特別支援学校が増加し、注目が高まってきているが、学校現場においては、改めてその意義について周知を図り、具体的な作業を通して理解を深め、推進を

図ると共に、児童生徒を中心とした活発な議論が期 待されるところである。本研究において提案したこ れらのツールの活用は、特別支援学校における課題 として従前から指摘されてきている小・中・高各学 部の、そして各指導形態間の指導内容の一貫性・系 統性の問題を解決するための方策の一つとしても有 効であると考える。また,学校現場において課題と なっている,いわゆる重度重複障害のある児童生徒 のキャリア教育の実践イメージの共有と充実にもつ ながると考える。現在、キャリア教育の視点による 教育課程改善をテーマに研究に取り組んでいる文部 科学省委託特別支援教育研究協力校や国立大学法人 附属特別支援学校をはじめ,各地の特別支援学校(知 的障害)を中心にこれらのツールの活用が進められ ているところであるが、今後、キャリア教育の推進 を通した各校の成果を新たな知見として整理してい くことが望まれる。

最後に今後の展望として、学校現場においてこれ らの活用を進めていくことにより、以下の二点につ いて期待したい。

一点目は、評価の充実である。これらの授業レベルや教育課程レベルでの分析・評価による指導の充実を図ることはもちろん、これらと関連して個別の指導計画や個別の教育支援計画における「本人の願い」や周囲の支援を経年的にとらえていくことは、キャリア教育の課題の一つである評価方法の明確化につながるのではと考える。今後これらの量的・質的なエビデンスを基に、児童生徒一人一人のキャリア発達の評価が丁寧になされていくことが望まれる。

二点目は、これらのツールが教育課程や授業の改善のみならず、具体的作業を通して教員集団のキャリア教育への理解を深め、組織的な取組を促進するためのツールとして活用されていくことである。清宮(2009)は、変化のまっただ中にいて「正解」のない現在、個人の有する「正解」から組織で生み出す「最適解」への転換が求められていることを指摘しているが、本研究において提案したキャリア教育を通してのC(Check) \rightarrow A(Action) \rightarrow P(Plan) \rightarrow D(Do)サイクルによる組織的な取組は、個人の有する「暗黙知」という価値を組織としての「形

式知」に転換していくことでもある。「最適解」はゴールではなく、よりよいものを追求し続けることであるという点を踏まえ、学校の有する価値や課題に気づき、共有し、見直しを図ることで、包括的な支援の充実につなげ、指導・支援をより質的に高めていくことが重要であると考える。

引用文献

- 中央教育審議会 (1999). 初等中等教育と高等教育 との接続の改善について (答申).
- 石川県立小松養護学校(2010). 一人一人が豊かに 生きるには一自立,社会参加につながるキャリア 教育を目指して一. 平成20·21年度文部科学省委 託事業特別支援教育研究協力校研究成果報告書.
- 菊地一文(2010). 特別支援教育におけるキャリア教育の意義と今後の充実に向けて重視すべき視点 一「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援する教育」としてのキャリア教育と「現在の教育活動を見直す視点」としてのキャリア教育―. 特別支援教育研究 No.638 (pp2-5). 東洋館出版社.
- 木本恭嗣・菊地一文 (2009). 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校におけるキャリア教育の観点に基づく指導内容の分析―キャリア発達段階・内容表(試案)及び観点位置付けシートを用いた授業分析による指導内容の一貫性・系統性の検討―. 日本特殊教育学会第47回大会論文集 (pp.434).
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2002). 児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について.
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2004). キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力 者会議報告書.
- 国立特別支援教育総合研究所(2008). 知的障害者の確かな就労を目指した指導方法・指内容に関する研究. 平成 18·19 年度課題別研究報告書.
- 国立特別支援教育総合研究所(2010). 知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究―知的障害のある指導生徒の「キャリア発達段階・内容表(試案)に基づく実践モデルの構築を目指して一研究成果報告書.

- Marland, S. P. Jr. (1971). Career Education: Every Student Headed for a Goal.
- Marland, S. P. Jr. (1974). *Career Education : A Proposal for Reform*. New York: McGraw-Hill Book Co.
- 宮城教育大学附属特別支援学校(2010). 豊かな社会参加につながる授業づくり(2年次) ―キャリア発達段階を踏まえた指導内容の構築を通して―. 平成21年度研究紀要(第43集).
- 文部科学省(2006). 小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引.
- 文部科学省(2009). 特別支援学校教育要領·学習 指導要領.
- 清宮普美代 (2009). 「チーム脳」のつくり方.WAVE 出版.
- 柴田琢磨・菊地一文(2010). 特別支援学校(知的障害) におけるキャリア教育の観点「夢や希望」を踏ま えた指導に関する一考察. 日本特殊教育学会第48 回大会論文集(pp.627).
- 渡部英治・菊地一文(2010). キャリア教育の視点による特別支援学校(肢体不自由)における教育課程の改善―キャリア発達段階・内容表(試案)及び単元における観点位置付けシートを用いた教育課程分析及び教員を対象とした意識調査による,一貫性・系統性を踏まえた指導の検討―.日本特殊教育学会第48回大会論文集(pp.734).

参考文献

- Hoyt, K. B. (2005). キャリア教育 歴史と未来(仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄, 訳). 社団法人雇用問題研究会. (Hoyt, K. B. (2005). *Carrer education: history and future*. Tulsa, OK: National Career Development Association.)
- 国立特殊教育総合研究所 (2006). 知的障害教育における領域・教科を合わせた指導と教師の専門性向上に関する研究. 平成 16·17 年度課題別研究報告書.
- 渡辺三枝子編(2007). 新版キャリアの心理学 キャリア支援への発達的アプローチ . ナカニシヤ出版.
- 渡辺三枝子 (2008). キャリア教育 自立していく

国立特別支援教育総合研究所研究紀要 第38巻 2011

子どもたち. 東京書籍.

全国特別支援教育知的障害教育校長会編 (2010). 特別支援教育のためのキャリア教育の手引き. ジアース教育新社.

全国特別支援学校校長会 (2009). 平成 21 年度全国

特別支援学校実態調查.

全国特別支援学校校長会 (2010). 平成 22 年度全国 特別支援学校実態調査.

(受稿年月日: 2010年8月31日, 受理年月日: 2010年12月2日)

李黙 1

			一日 記数													0	
(2009)		能力	- 	⊩													
国立特別支援教育総合研究所(2009)		決定能	自己選択/振り返り/肯定的な自己評価	╟												0	က
育総合		意思》	自己選択(決定、責任)自己選択(決定、責任)	L												0	
支援教		ηшζ	甲糠設定)				0		0					3	Ш
立特別		七	刔 鋁													0	
	記入者	計能	生きがい・やりがい やりがい	0)			0				0				3	
独立行政法人	記	f来設	夢や希望										0			-	
英		軟	習慣形成													0	
	#	力	役割の理解と働くことの意義はたらくよろこび/	C)		0									2	
温声	小学部6年	用能	管理/消費生活の理解金銭の扱い/金銭の使い方と													0	5
〇は関連する観点	小学	報活	法や制度の理解社会資源の活用とマナー/													0	4
つは関ジ		丰	情報収集と活用様々な情報への関心/					0				0	0			3	
	>	能力	/場に応じた言動 挨拶、清潔、身だしなみ													0	
◎は主たる観点、	757	係形成能	意志表現			0				0						2	4
0	学部・クラス	噐	集団参加/協力・共同				0									1	7
	-21	人間	自己理解・他者理解人とのかかわり/							0						٦	
付けシート	〇〇特別支援学校		主なねらい	活動に自分なりの見通しや関心をもって、意欲を		話し合い活動のときには自分なりの考えを発言する ことができる。	友達となかよく活動し、自分の役割を果たすことが できる。	自然や社会の出来事に関心をもち、意欲的に観察 や実験をする	いろいろな活動に自分なりの見通しや関心を向け、 意欲をもって取り組むことができる。	話し合いの場面では、友達の意見に耳をかたむけ、 自分の考えを言うことができる。	活動に自分なりのめあてを決めて取り組むことができる。	自然や社会の出来事に関心をもち、意欲的に観察 や実験をする。	夢やあこがれを持った職業について調べたり、体験 を行ったりする。			16観点別	4領域別
単元における観点の位置付けシート	学校名		指導の形態等題材・単元名	生活単元学習	・野菜を育てよう	・カメを飼おっ・堀川遊覧船に乗ろっ	・お店屋さんを開こう!・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・地域を調へよう ・お店屋さんを開こう II ・料学 考厂 たいまえっ	・お仕事をしよう・お仕事をしよう・お正月の遊びをしよう	生 ・スキー・スケートに行こう 活 ・誕生会をしよう		学 - 植物の成長 学 - 人体のしくみ 図 - ナケーケ &	- ・ 人ぶCXi ※ - 電気の働き			- T- II-	米司
1		<u> </u>	まうことまま言	١Щ					-	~1115	را، ا⊶	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	_			1 #	Ŕ

資料の

キャリア発達段階・内	ャリア発達段階・内容表 (試案) の活用による「}	「授業における観点位置付け・授業改善シート」					
学 学 学 学	〇〇市立△△中学校	場所 1組教室	0)先輩たちの実習体験などをl また、自分たちの生活を振い	〇先輩たちの実習体験などを聞き、自分の具体的な進路を考える。一情報収集と活用(情報活用能力) また、自分たちの生活を振り返り、進路を見通して自己理解を深め、中学校生活でどんなことを学べばよいかを	える。→情報収集と活用(f 解を深め、中学校生活でどん	青報活用能力) oなことを学べばよいかを
指導形態名	生活単元学習	工1 在2名 市通光	本時 目 標	考える。→進路計画(将来設計能力) 与えられた役割を果たすことができる。 ※加た一帯はいる発車+マーレバσキェ	考える。→進路計画(将来設計能力) ・与えられた役割を果たすことができる。→協力・共同(人間関係形成能力) ・ ※如か=非准いの数率+2 - しばかま2 - 4担ったい4.=新(「問問FDのの4.44)	間関係形成能力)	
題材名	「ようこそ先輩」進路学習		•	過少な音条使いで光衣9ので	- C かできる。 →場こゆした目:	劉(入 月 美 木ボア及作ビノJ)	
<u> </u>	学習内容	支援と指導上の留意点	キャリア発達段階	. 睹·内容表 (試案)		気付き	
導入 1.「ようこそ先輩」	そ先輩」のタイムスケジュールを聞	プリントの準備をしておく。	主たる観点	関連する観点	次時の授業改善点	教育課程への反映	生活全体への反映
くる後にを確認する。	رم	自分の係りに手を挙げ、確認する。		協力・共同《人間》			
	† 5.				・挨拶や司会など時間をかけて できるだけ自分で考える	 	・校外学習や産業現場等における実習において
4. 時間を確認し出沙校長室への認	時間を確認し出迎えの係りが出迎えに行く。 校長室への誘導 控え室への誘導	出迎えの仕事内容の確認をする。	L	場一応じた言語	ようにする。	こっ、かん、で。 国語で文章の作成能力を ローナ2	年上の人などに対する一番様に大き
5. 他の生徒は練習を継続する。	を継続する。	接拶·校長室への誘導等、言葉使いに気をつけ (一るようにする。		《大聞》			回来価い 谷田 しへり る。
展開 6. 卒業生を教室へ認	卒業生を教室へ誘導し全員で挨拶する。						
7. 司会役が前に出て進める	て進める。	進行のメモを作っておく。					
8. 初めの挨拶をする。	92°	事前に挨拶の内容について, 話を聞きながら作ってむく	情報収集と活用		話を聞いてメモをとる練習をしておく。	国語で話の要点をまとめる力をつける。	
	A校の卒業生・先生の自己紹介を聞く	 話の内容をメモできる生徒はメモをしながら	《情報》 進路計画		情報を記録するためのシーナガ#! エロナラ		
9. 自己紹介をする。		· Selection of the sel	《将来》		トを準備し、沽用する。		
10. A校の卒業生や先生 11 浄中盤間になった	A校の卒業生や先生からのお話を聞く。 海山磐間になうス	質問したいこともメモするように支援する。					
12. 事前にメールで聞く	ユースロニョルでの 事前にメールで送った質問について答えを 聞く	U		意思表現《人間》	・誰の質問かを記録しておく。	・学校生活全般をとおして分からないことを質問	・地域社会の中で、一人で買い物に出かけたり
13. 質問があればする。	‡5.				・質問の仕方や答え方の定型	したり、質問に対して答	交通機関を利用したり
14. 感想を言う。		司会に 2・3 人当てるよう指示する。			を示したカード等を準備し、一活用する。	えたりする場面を設定す る。	するとき、分からないことを聞くことができる。
まとめ 15. 代表がお礼の言葉をいう	言葉をいう	事前に言葉を一緒に考えておくが、感想など 付け加えてもいいことを伝えておく。			・自分の質問に対する回答に 応じる。		ようにする。
16. 中学生でお礼を言	を言う						
17. 全員で挨拶する。	°2						
18. 係りが卒業生・ する。	係りが卒業生・A校の先生方を控室に案内 する。						
19. 感想を書く。							

Development of Trial Instruments/Techniques for Improving and Enhancing the Educational Curriculum and its Implementation from the Perspective of Career Education

KIKUCHI Kazufumi

(Department of Educational Support)

Abstract: To utilize the "Framework of Career Development in Stages and its Contents (Pilot Scheme)," for children/students with intellectual disability, two instruments were developed; (Instrument 1) Location/Positioning of career orientations/perspectives in course units to analyze and improve the educational curriculum, and (Instrument 2) Location of career orientations/perspectives to improve lessons, designed for the enhancement and improvement of classroom lessons/teaching. Both instruments were trialed in schools and classes for children with Special Needs. Teachers were surveyed on the changes in their awareness on the areas of competency and career orientations embedded in course units and

lessons. The results showed that 54% of teachers using Instrument 1 and 96% of teachers using Instrument 2 reported an increase in self-awareness. The difference in self-awareness between Instruments 1 and 2 may be due to operating cost differentials, the curriculum and lessons targeted, or the interest of individual teachers in the respective perspectives/orientations. The results also suggested that introduction of these instruments is easier in lessons as well as being linked to improvements in the curriculum.

Key Words: career education, intellectual disability, educational curriculum, improvement of lessons, evaluation of educational curriculum, lessons